

会報

第660号
2021年3月
札幌友の会

3月26日現在	会員数	671人
会厚	別	54
新札	札幌	53
平岡	岡石	41
白が	平丘	60
羊豊	西	49
	角	50
	山	48
	央	53
	山	54
	鼻	44
	山	47
	内	54
	苺	8
	信	6
	駒	8
	木	6
	通	6
3月末より22人減		

三月 オンライン例会

三月例会 3月11日(木)

司会 小林(子ども部)

讚美歌 五〇三番

読書「悲哀を知る人びと」

思想しつつ生活しつつ下

総リーダー

奉仕部リーダー 友田

新年度に向かつて

推進から 推進委員 丹羽

新総リーダー紹介

SDGs

私たちにできることから始めよう

生活部 成田

私の「ヘチマ日記」

厚別方面 齋藤

羽仁先生の教育と出会って

6才組母

2020年度

全国農村愛土生活研究会の報告

購買部リーダー 薦

新入転入お客様紹介

実務報告

讚美歌 五三二番



友の家 君子蘭が咲きました

新入転入お客様紹介
1人
実務報告
実務 新札幌 広報部
出席 246人

読書 「悲哀を知る人びと」

総リーダー 阿波加 寿美代

10年前の3月11日は、人の力ではどうにもならないことがあると思ひ知らされた日です。続いて起きた原発事故は私達がしてきたことの結果だと思ひました。人が生きていく間に処理できない放射性廃棄物の問題を解決しないまま好きなき電氣を使い、4万人以上の人が10年たった今も懐かしい故郷に帰れないという現実を招いたのは私達自身です。この痛みを忘れてはならない、忘れるほど私達は愚かではないと思ひたい。著作集で「人間の発達し進歩してゆく最初の歩みは苦痛だ」と創立者は言われます。この痛みを進歩の緒にして、本当の進歩とはエネルギーをたくさん使って便利な生活をすることではなく、最小のエネルギーで心地よい生活することだと思ひえる社会を願っています。

友の会という団体にいることでいつも生活を見直すことを呼びかけられ、戻されることを私はありがたいと思ひます。どんな生活をしたら余計な電氣を使わないうで済むのか友の会の中で学び、使用量を意識し、電氣製品を減らしてきました。これからもみんなと呼びかけ合い、生活を見直していきたいと思ひます。震災後、福島の親子を保護のために友の家を招くことをしてきました。当時の奉仕の係が、2月の地震のお見舞いのメールを保養に来た人に送ってくれ、お返事をもらいました。「昨日は久々に大きな揺れに飛び起き、10年前の怖さがよみがえりました。幸い大きな被害はなく、なにより原発のことが不安でしたが、異常がなくほっとしました。震災の体験は乗り越えたつもりでも、強烈に残っているのだと改めて感じました。原発の不安はなくならない

です。いつも気にかけていただきありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです」とありました。陸前高田の子ども図書館「ちいさいおうち」への支援や「こどものための音楽会」の福島の親子の招待など、友の会の公共費に差し出すことは悲しみを共に担うこととであり、私達一人ひとりが足元の生活を見直し、電氣やガスや水道などの使い方を減らすことは、痛みを分かち合うことなのだと思います。

10年の節目と年月は区切っても悲しみに区切りをつけることはできませんが、震災10年の年に、札幌友の会90周年を迎える意味を思ひます。2月の総リーダー選で、昨年の今頃のことを思ひ出してしまいました。総リーダーに推す理由を聞いたところ、2月いっぱい自粛に入り、それから小中学校に合わせ春休みまで自粛を延長し、続いて緊急事態宣言が出されました。活動の見通しが立たないうちに、総リーダーを選振り出しに戻すわけにはいかない、早く受けてこ

れからのことを考えなければという責任を思い、私の中で総リーダーを受け取る覚悟がかたまっていました。自粛の谷間に委員会を開き、総リーダーを受けたもの、また自粛、委員会も持てず歩み出すこともできない時、「最寄の人はお元氣ですか」と全最寄の最寄リーダーさんと葉書を書きました。これが私のスタートだと思ひました。手探りでZoomで部のリーダー会、委員会を始め、夏の3カ月は対面の集まりを持てたので、方面の人に会うこともできました。水中で水をかくような進んでいるのかいらないのかわからないような一年でしたが、水をかく手を休めることはなかったと思ひます。苦しかったのはやはり活動を自粛するかどうかの判断でした。活動自粛を決めればその途端、一体どうなつたら再開できるのかと不安が湧いてきました。みんなの会いたい集まりたい気持ちには痛いほど感じていましたし、コロナウイルスに対する受け止め方にも温度差があり、自粛の判断に疑問の声もありましたが、コロナウイルスという未知のも

のに対して、私はどうして
も大丈夫と思うことはでき
ませんでした。誰かが「大
丈夫」と言ったとしても、
人に判断を委ねるわけにい
かない責任を感じ、自分の
感覚を信じようと思いまし
た。もちろん皆で相談して
きました。最後は総リリー
ダーとして決断しなければ
ならないのです。守られて
皆が無事にここまでくるこ
とができたことに心から安
堵し、感謝しています。ま
だこの状況は続きます。緊
張感を持っていききたいと思
います。

オンラインで例会ができ
るようになりましたが、パ
ソコンやスマホを持たない
人は寂しい思いをされてい
ることでしょう。友の会活
動がすべてオンラインにな
るわけではありません。オ
ンラインの良さはあります
が、オンラインで得られな
いものがあることも身に染
みて感じた私達です。状況
がもう少し良くなれば、例
会も友の家で少人数でしな
がら、オンラインで配信と
いうこともできるようにな
ると思います。集える日を
待ちましよう。

今年著作集を読むほどに
創作者羽仁もと子の強さ、
独創的な自由さに驚き、身
近に感じるものができまし
た。この一年は私にとつて
創立者を知り、友の会を知
り、人の思いを知る一年で
した。なによりみんなの友
の会を求め、生活を愛する
気持ちを強く感じさせても
らいました。

私たちの本能に、さまざま
の希いとあこがれの種子
のまかれていて、ということ
は、何という感謝すべきこ
とでしょう。それが皆私た
ちのゆくべき道を指し示し
ていてくれるのです。

「悲哀を知る人びと」
思想しつづ生活しつづ下

今年叶えられなかったが
故に、たくさんの希いと憧
れの種子が私達の胸に刻ま
れました。

テーマに願った「真実の
交わりを求め 愛と協力で
つながろう」「共に生きる
ために 適量の生活を」は
私達のゆくべき道にほかな
らないと思います。新しい
年も内に外につながりを求
め、共に生きる適量の生活
を社会に訴えるために、小
さくとも強い光を放つ一人
ひとりであり続けたいと思
います。

今年のテーマ

「真実の交わりを求め

愛と協力でつながろう」

「共に生きるために

適量の生活を」

奉仕部リーダー 友田 順子

10年前の3月11日東日本大
震災と福島原発事故がおき、
多くの人達が混乱と恐怖の中、
尊い命が犠牲となり、未曾有
の被害をもたらしたことを今
も忘れることはできません。

札幌友の会はずぐに支援活
動を始め、支援物資はスモッ
クエプロン、新入学の袋物セツ
ト、座布団やおやつなど沢山
ありました。被災された人た
ちの要望で必要な物が用意で
きたのは、友の会で培われた
確かな生活の技術があつたか
らです。励んできた生活研究
が神様の御用として用いられ
生かされたと思ひ感動しまし
た。当時、札幌の会員皆が協
力したい、力になりたいとい
う気持ちであふれ、友の家で
支援物資作りに励みました。

共に学び、共に働くの言葉が
浮かびます。一緒に学び、働
くことで奉仕の心、愛の心も
養われるのではないかと思わ
され、また私達はいつでも差
し出せる力を蓄えていきたい
と思います。

昨年、福島の今を伝えたい
と予定していた講演会の講師
の方は事故後9年間、毎月福
島に赴き悲しんでいる人達に
寄り添ってきた人です。私は
「放射能は怖くなかったので

すか」と、尋ねたところ「そ
う感じた事はなかったです。
医者なので」と、即答され暗
闇の中に光が灯されたような
神様の愛を先生から感じまし
た。私も悲しんでいる人、困っ
ている人がいたら手を差し伸
べ、寄り添っていく一人にな
りたいと思いました。

著作集「同じ思いの皆様と共
に、思いに映る我と人との悲哀
を深く深く心にかけて、それが
またわれわれを愛する神の悲哀
でもあることを思い、その取り
去られることを祈り努めまし
う」と重なります。

総リーダーと共に歩んだ

一年に感謝して

コロナ禍の中、総リーダーとし
て今までと違う友の会の活動を
日々、考える大変な一年だった
ことと思います。その様な中
も各方面のことを自分のことと
して一緒に考え、アドバイス等
もいただき、今は感謝の言葉し
かありません。特に平岡方面は
オンラインになかなかつながら
ずご心配をおかけしましたが、
2月25日12人参加し、初めて
オンラインで方面会が出来たこ
とを報告すると、画面越しで一
緒に喜んでくれたことは、とて
も嬉しく思いました。その後も
つながる人が増えています。
一年間ありがとうございました。
平岡方面リーダー 下村 早苗

新年度に向かって

推進委員

丹羽 淳子

新年度の運営について

方面リーダー会は今年度、対
面で3回持つことができ、方面
のことを充分に話し合えました。
リーダー同士がお互いに刺激を
もらえて良かったとあり、方面
が活発になることは札幌全体が
元気になると考え、新年度は、
月に2回の委員会の1回を方面
リーダー会にすることに決めま
した。新年度は部のリーダー会
係りリーダー会、委員会、方面リ
ダー会の4つの柱をもとに札幌
友の会の運営をしていきます。

組織について

講習部

暮らしのステップアップ塾
はコロナ禍のために新年度も募
集はせず、準備の年としますが、
手を動かす会と一緒に会員向け
にオンラインなどで単発の講習
会を考えています。

新年度から生活工芸が講習部
に入り、より会員の衣食住が豊か
になるような生活を目指します。
・製作品係会

受け継がれてきた技術を大切
にしつつ、今の生活に合ったも
のを作っていきたい、願いや使
い方、作り方などを紹介する場

を持ちたいと思ってきましたが、コロナ禍の今、中心では係をおかないことにしました。方面で生活の中に手を動かすことを取り入れて欲しいと思います。

2021年度札幌友の会 創立90周年について

委員会での話し合いで、2021年度は、友の家を使つての対面のイベントやフェアは難しいと考え、しないと決めました。「あなたの声を届けてください」に寄せられた、たくさんの願いの中から、できることでお祝いしようと思ひました。

北島さん(厚別方面) 今年度ホームページやオンライン化などに気持ちよく時間を差し出してくれた。北島さんは「新年度は家族のことに時間を使いたい。総リーダーになると家庭が疎かになるのではと心配」と言っていたが、友の会の根本は家庭、社会に向けての発信は家庭からの発信で豊かになる、この先10年を考えるとところに総リーダーとして立って、若い人に繋いでほしい。

小佐野さん(白石方面)

会報です。90周年に向かつての特集が始まっており、4月からは、全最寄から寄せられた「最寄と私」を毎月掲載予定です。ホームページでも90周年記念のWEB展示も開催中です。

小佐野さん(白石方面) 方面で新しいことに対する取り組みがすごかった。発想・考え方が新しい、新しい友の会が見えてくる。小佐野さんは人との係わりが必要と思つて本当にたくさんの時間をかけてくれた。これからは総リーダーとしてみんなに呼びかけてほしい。(推された人の声)

小佐野さん 方面リーダーとして、友の会と仕事の両立ができるようにと思つてしてきたが、難しいと感じた。有職の人が両立できる総リーダーをと言われたが、私には無理だと思つた。

総リーダー選

・2月22日委員会

広報部リーダーの北島さんと白石方面リーダーの小佐野さんの2人に絞られ、たくさんの声が届けられました。

北島さん

自分の願いと総リーダーというものとのギャップの大きさを感じた。それでもやってみようとは中々思えない。

という言葉に、皆からは友の会は自由な所。軽やかに飛び込んでみて欲しいと北島さんへの声が大きくまりましたが、「もう少しだけ時間がほしい」と言うことで、この日の委員会は終わりました。

その後、北島さんから総リーダーへ受ける決心が届けられました。

・3月2日委員会

北島さんは、みんなが推してくれる声を受け取れない自分がいたが、『そのままでもいいよ』という声が心に残つた。気持ちを決めたら、心が軽くなり、皆さんからの言葉を受け止めてやってみたいと思えました。との言葉に静かに待ち望んでいた祈りの中で新しいリーダーの誕生を心から喜び合いました。

2021年度総リーダー 北島 美地子さん(厚別方面)

Table with 2 columns: 厚別方面 (厚別、新札幌、平岡、白石、羊が丘、豊平、西平、三角山、中央山、円山、山鼻、桜山、真駒内) and 厚別方面 (梁田、水野、小川、岡本、横山、佐藤、和藤、佐々木、廣瀬、渡部、深澤、門脇、恵子、由実、利恵、真由美、成子、真知子、紀子、祥子、かずみ、綾子、ますみ)

2020年度 全国農村愛土生活研究会の報告

Table with 2 columns: 出席者 (白石方面: 白石、購買部リーダー: 阿波加、中央委員: 花谷、佐藤) and 購買部リーダー (鳥、博子)

全国農村愛土生活研究会は、農家漁家会員と同じ生活者として思いを分かち合える場として、4年に一度行われ、2月17日・18日360名程が参加しオンラインで行われました。

一日目の礼拝は、中央委員の岩崎幸子さんで「農作業の時間は、命と自然を相手にする時間、楽しく豊かなもの。今の農家の苦境は私達の無自覚な生活が招いている」と言われました。

分科会では「主食の米の需要が減り、米余りから減反の通知が来る。今年ほどの位か不安。年間定期購入はありがたい」「友の会で定期購入を広げてネットワーク作り応援していきたい」「温暖化で今までにない草や害虫の発生。減農薬は難しい」「種子法など安心安全の逆を行くことにもっと私達が関心を持つこと、高くても適正価格で買うことが農民を守ることにつながる」と言う言葉が心に残りました。札幌には3人の農家会員、北海道では49人がいます。私は、もつと親しくなり、その中で

何が出来るか一緒に考えていきたいと思ひました。最後に「プランターで野菜を作り、収穫の楽しさを知りながら農家のことを知っていききたい」と呼びかけられました。春になったら皆さん好きな野菜を作ってみませんか。

白石方面 鳥 聖雪

私が特に興味深かったのは、高松で養蜂をされている田中さんでした。ハチミツ採取と作物の受粉のために蜂を貸し出すのが仕事だそうです。お隣の香川が玉葱の種取の日本一、大農地でネギ坊主の上を蜂が飛び交う様子が写し出されました。



我が家の玉葱の種もあるのかと思うと、ワクワクしました。翌日の佐々木撰氏の長野県野辺山で5人の子ども達との豊かな農家生活の様子を伺いました。若い生産者の未来に希望が感じられ、頼もしかったです。

最後の挨拶の中で自由学園の方が、生徒達の食事に流通にのらない野菜を利用したいと話されました。4年前にも提案しましたが実現できないとの事でした。送料が高いなど、実現するには課題も多いと思ひますが道が開かれるといいなと思ひました。異常気象、プラごみ問題、種子法など色々ありますが、友の会会員皆で考えていきたいと思ひました。

生活部
SDGs

私たちにできることからはじめよう
生活部 成田 喜枝

東日本大震災から10年、自分の暮らしをどのように振り返っていますか。

2020年CO2排出量年計表は265人の提出があり、前年より21枚も多い提出でした。エネルギーの使い方を振り返り、環境、暮らしかたを考えるために役立てていきましょう。

これから私達が大切にしたいことは目の前で見えていない隣人に思いを広げ、自分にできることを実行していくことだと思います。

友の会で大切にしてきた「適量の生活 人の分まで食べない、着ない、使わない」はまさにSDGsを具体的に暮らし方です。自分のこととして考え実行することで、未来は少しずつ変わっていくはず。足元の小さなところから、私達にできることを始めて続けていきましょう！

SDGs わたしたちの実践
適量の生活…人の分まで食べない、着ない、使わない～
・水道の水はサインペンの太さで
・鍋帽子®(保温調理)を使う
・食器洗いは自然素材のもので
・ラップやポリ袋は、できるだけ使わない
・使わない照明は消す
・エコバック、マイボトルを持ち歩く
・家計簿で生活を見直す
(ホームページより一部抜粋)

私の『へちま日記』

厚別方面たんぼ最寄 齋藤 敦子
マイクロプラスチックが流れ出るのを防ぎたいと6月の最寄会で、食器洗いの洗いに布に変わるものに何を使っているかなど聞き合いました。婦人友会2020年6月号に「へちまたわし」のことが載っていたけれど、使い勝手はどうなのか取り寄せてみんなで使ってみようという話が進みました。

9月10日 乾燥へちまが届きました。カタカタと中で何か音がするので振ってみると1cmほどの平たい黒い種がいくつも飛びだしてきました。そのことを最寄に伝えると、入会間もない中村さんが「来年この種時いて庭でへちまを育ててみたいです」と言っていました。それで試しに「芽出し」を試してみようことにしました。コトンを濡らせて種を5粒置きました。

3日目 なんと5粒みんな芽が出ました。根も出ています。そのみずみずしさには感激です。

11日目 芽も根もしっかりして来たので、ポットに移植しました。

10月24日 順調に育ち、3〜4枚本葉になりました。土がたっぷり入る大きなプランターに植え替えて支柱を立てました。

11月9日 黄色の雌花が咲きました。黄色の花は目に優しく、いい香りがプンプンします。



12月7日 雄花と雌花、両方揃って咲きました。朝9時までに4輪受粉完了です。へちまの花は朝方に花が開き夕方にはしぼみ、翌日落下するじつにいさぎよい花です。

12月13日 小ぶりのキュウリみたいな実ができました。

12月26日 実、全体が緑鮮やかで縦に濃い緑の線がくつきりあって、とても美しいです。長さは、15〜23cm。



1月15日 実はいっくらと膨らんで養分を溜める時期に入った感じがします。実をつまんでみると、硬いスポンジみたいで弾力があります。中がどうなっているか開けたい気持ちグツと我慢しています。

葉が枯れ始め、実が茶色になるまでこの状態で収穫を待ちます。へちまの水やりは夫がずっと担当してくれました。その夫が「最近、水を欲しがらないなあ」と言っていたのを思い出しました。収穫のあとにも充分な乾燥が必要で「へちまたわし」の完成までには、まだまだ半年以上はかかりそうです。

方面で出している「厚別だより」に2回にわたってへちまの成長記録が載りました。すぐに方面のみんなから、温かい言葉が届きました。どんな環境も受け入れ、懸命に生きる『冬のへちま』には私達も勇気をいっぱいもらっています。雪が溶けたら今度は方面のみんなと庭で育ててみたいです。

皆で家計簿をつけましょう

夫と一緒に ※kakei+ 桜山方面 山本 百合恵 (30代)

「家計を管理している人が誰もいない」共働きで多忙だったことを口実に、どんぶり勘定すらしていなかった我が家が、長男の出産、家の購入を機に家計と向き合わざるを得なくなりました。とはいえ、何をどうすればよいかわかりません。

家事家計講習会に声をかけてもらったのはそんな時。「家計を見直すのは今！」と一念発起し、友の会に昨年入会しました。記帳していくと、いかに「なんとなく」お金を使っていたかが浮き彫りになりました。「見える化」されるからこそお金の使い過ぎにブレーキがかかり、生活を変えていけるという手ごたえを感じていました。

とはいえ、2児の子育てに追われる毎日の中で、溜まったレシートを広げ一つひとつ書き出していく作業は、私にとってハードルが高く、家計簿に向き合う時

間をなかなか作り出せず悶々としていたときにkakei+を薦めてもらいました。

クラウド家計簿を夫婦で共有すると、夫が率先して使い始めてくれ、週末のまとめ買いの長いレシートの入力もかって出してくれました。今では夫の方が様々な機能を使いこなしています。無料アプリとは違い、kakei+では、例えば食費なら、金額だけでなく、何にいくらかかっているかがわかり、買っている野菜のバランスを把握できるようになりました。また、教育費にかかる割合が多くなっていることがわかり、見直す機会にもなっています。今、夫が中心になり予算を立てているところです。



これからも夫と協力して家計のことを話し合っていきたいと思います。

市内見学



*収穫祭

羽仁先生の教育と出会って ～2020年度 幼児生活団と卒団の母の話～



今年度の幼児生活団は、6月から始まりました。コロナ禍で、どうしても再開できるか話し合いを重ね、屋外での生活団を増やすことにしました。

6月市内見学、7月円山・藻岩山登山、9月体育の日、10月西岡遠足、2月月寒公園そりすべり、園庭でも夏祭りや収穫祭をしました。5才、6才、弟妹も参加し、真剣で楽しい交流がたくさんできました。

今年は長年育てた鳩の飼育をやめる苦しい決断をしましたが、5才、6才で大切に楽しくうずらを育てています。

「4人の子どもの顔」は、6才組の子ども達が鏡を見ながら、割箸に墨汁をつけて、ていねいに描きました。
指導者リーダー 高橋 典子

白石方面 宮崎 志穂

真衣との生活団のスタートは、真衣のことを理解することなく、目に見える成長ばかりに囚われていました。

5才組の2学期に円山動物園へ遠足に行くため、子どもたちの中で決めたリーダーになった時、当日は大丈夫だろうか・と心配するほどテンションが高かった。その

晩、布団の中でしくしくと泣いている真衣に理由を聞くと「やっと遠足終わったの。リーダー頑張った。みんなどこかへ行かないように気をつけた。ちゃんと歩いたの」と話してくれた。

著作集の中で「子ども自身がその生命の中に自分の生命を護り育てるために、強い賢い力をさずかっているものであることを確信して、ほんとうに彼を知る事が第一です」を思い出し、真衣の心の成長に気づくことができました。

生活団で過ごした3年間は、真衣や著作集を通して気づきを得るための、大切な時間であったと思います。



西方面 谷口 理佳

洋輔は3年間の励みの全てをする

「そつぎょうにおかっけいくきしゃ」に取り組んでいます。その励みの様子を見る機会がありました。自分の心に問いかけながら、どうしてできないの

だろうかという葛藤や疑問をぼつりぼつりと話します。振り返る姿から子どもたちの心の深いところにある思い「できるようにになりたい。よい自分になりたい」という願いと強さが伝わりました。私は初めて、子どもがそう願うカに素直に感動しました。その姿に子ども心の成長を感じました。3年間大変なこともありましたが、生活団の子どもたちや母たちの中で、親子で自分自身に向き合うことができました。洋輔は仲間の中で、自分で考えて行動することができました。私は生活団で子どもを信頼し、温かく支えることの大切さを幾度となく教えられてきたことに今さらながら気がつきました。

この思いを胸に子どもとの生活を大切にしていきたいです。



白石方面 瀬戸 さおり

親は子どもにやってあげるのが当たり前、それがいい親と思っていました。

著作集に「おさなごは自ら生きる力を与えられているもので、その力は親の助けや、周囲の力に勝る強い力」とあり、はっとしました。今卒業に向かって頑張っていますが、さくらはパッと寝が苦手で8時に寝ると決めても中々寝ないので私が「9時にしたらそしたら守れるよ」と言う

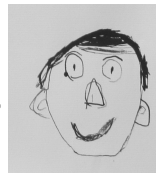
と「いや8時に寝る！さくらは子どもだから子どもの時間に寝る」と心の底から強く言いました。カッコイイ1年生になりたいから頑張る！と意気込み、それから8時に1人で真っ暗にして寝ています。つい先回りして口や手を出していましたが、「子どもが自分で考えて自分で行動する」ということの大事さを痛感しました。できなくてにこだわっていたのは私の方で、子どもの思いやどう感じて行動したかという思いを3年目にしてようやく気づかされました。生活団では素晴らしい仲間にも恵まれて感謝の気持ちでいっぱいです。



西方面 楠 亜希

思い出されるのはうずらのお世話です。お世話がきらいでいつも野菜の準備を嫌がっていました。ある日「もうお世話しない。野菜持って行かない。6才にうずら返す」と何も持たずに行きました。私が野菜を持たせたらダメだ、責任を持ってやってほしいと思っていました。

しかし、次の日迷いながらも内緒で私は野菜を持って行きました。指導者に話し「子どもに渡してあげて」と云われそっと渡しました。息子はホッとした様子で「ありがとう」と受け取りました。その時からです。お世話を嫌がらなくなり、お世話しないと云うことはありません。「うずらかわいい。野菜1人で切る」と云っています。出来る様になりたい、でも面倒なこと苦手なこと母に頼りたくない嫌だという気持ちをぶついたりを繰り返してきました。やっと今がんばりたいと思う気持ちを信じられるようになりました。子どもが離れていく寂しさを感じていた私も今は大丈夫です。



通読本

思想しつゝ生活しつゝ

(下)

2021年度
札幌友の会創立
90周年に向かつて



子どもが笑顔で過しさせる

社会を願って③

幼児生活回係 深澤 美佐子

幼児生活団の成り立ち

「教育を詰め込みから解放したい」と願って自由学園を創立し、ニースで開かれた世界新教育会議で、日本の乳幼児死亡率の高さと幼児教育の遅れを痛感した創立者は、またご自身のお子さんを亡くされた深い悲しみから子どもへの教育を生涯の課題とされました。そして650人にものぼる幼児の生活調査研究を行い、1938年【幼児生活展覧会】を開催しました。

- 幼児教育の急所は生活から
- その生活からよき頭脳をつくる
- その生活からよき人情をつくる
- その生活からよき手腕をつくる
- その生活からよき健康をつくる
- その生活からよき国民をつくる

1939年 幼児生活団誕生

「子ども自身が授かっている生きる力を信頼し、その自治的人格を尊重しつつ共に生活することが幼児教育の根本」との考えから、その実験組織として、幼児生活展覧会の翌年に自由学園で幼児生活団を始められました。

週一度年齢別に集まり、あとの6日はおうちで過ごすという家庭と子どもと指導者の協力による新しい幼児教育です。4才組は最初に手あらいの仕方を習い、うがいは1つ年上の5才組が教えてくれるなど同じ年齢のお友達と一緒に学び、体験し、おうちで繰り返しやってみます。

5才組はひまわりの種を蒔き、丈計りをして大きくなったら背比べをして絵を描きます。花が枯れたら種敷えをして自然に数の概念を捉えていきます。植物や動物のお世話も、研究心を育てるばかりでなく子ども達が命の愛おしさも感じていきます。美術や音楽もすべて生活と結びついていると考えられました。

札幌の歩み

- 1939年 幼児グループが始まり、その後、週1回の集まりが持たれるようになる。
- 1965年 元町友の家落成と共に、4才児を持つお母さんが生活団を願った。
- 1966年 4才児5才児の親子と指導者の集まりを持つ。
- 1967年 札幌友の会幼児生活団始まる。
(子ども55人指導者6人)

子ども達が友の家にあふれる

- 1971年 募集人数が初めて定員を超えた。
- 1985年 3組で101人になった。
- 1986年〜1997年 円山の新家の家での新たな環境に恵ま

れた中で、子ども達は100人前後、指導者も19〜21人が全勢力を注ぎ、活気にあふれました。

社会状況の変化を受けて

- 2002年 音楽教育充実のため、音楽の日を設ける。
- 2010年 子ども達の体力向上を願って集団遊びや運動の時間を組み入れた「集団の日」を設ける。
- 2012年 園庭が整備され、畑でじゃが芋、サツマイモを植え、秋には収穫の感謝祭をする。

一方、子どもと登団日以外の日の過ごし方を不安に思ってお母さんが増えたことから登団日を週二日にするなど、様々な取り組みをしてきました。ですが、少子化や職業を持つお母さんの増加、また2019年度幼児教育無償化が決まり、今後生活団希望者が大きく増えることが望めない現状から、2018年度何度も話し合いを重ね、2020年度の募集中止を決定しました。

創立者の願った教育が更に広められるように

2020年度の6才組は54回生。コロナ禍の厳しい一年を親子でたくましく元気で過ごし、3月13日無事卒業式を終えました。2021年度新6才組は55回生です。最後の一年を充実して実り多いものにしたと指導者一同渾身の思いを込めて準備しています。今社会は激変し様々な制約で、子育て

中の家庭は多くの不安を抱えながら毎日を精一杯過ごしています。その中でも、大人も子どもも朝元気に目覚め、食事をおいしくいただき、一日の活動の後は静かに眠るという生活が心身の安定につながるかと私は実感しています。「おきるたべる あそぶ ねむる」という子どもの生活の基本は変わりません。一生懸命に生活する子育て世代に、友の会は「いつでも応援しているよ」と声をかけ、一緒に歩み続けたい。まず私達自身が日々をていねいに暮らして、そこから生まれた知恵や工夫を回りに発信していきたいです。

これまでに、1000人を優に超える卒業生が巣立って行きました。幼児生活団は終了しても「よく教育するとはよく生活させることである」という創立者の教育理念が、卒業生のみならずすべての子育て世代に広く深く受け継がれていくことを心から願っています。

おきなごを發見せよ

「子供自身がその生命の中に、自分の生命を護り育てるために、なくてはならない強い賢い力をさずかっているものであることを確信して、赤ん坊の泣き方にも幼児のまわらぬ口にそのおさない思いを語るときにも、それらによって、ほんとうに彼を知ることが第一です。あらゆる教育の工夫は皆そこから出てきます。」

著作集 教育三十年

創立者のこの言葉を今こそかみしめたいと強く思います。

